

ヒューマン

過保護も困る？

北区支部 今 真人

小泉内閣が必死になって導入しようとしているアメリカ型医療制度、マネジドケアシステムの欠点は、すでに出尽くしたかの感があります。とても日本に馴染むものではないことは誰の目にも明らかです。しかし、昨今の日本政府を見ているとまだまだ懲りずにマネジドケアシステムを直輸入させようとしています。いかげんにしてほしいものです。

では今後日本が目指さなければいけない制度はなんでしょう。アメリカがダメだとすると、その対極に位置する制度を持つ国はどうでしょう。つまり社会保障方式を採用している代表国といえば、もちろんスウェーデンです。今回は最近のスウェーデン医療制度がどうなっているのかを少々調べてみました。

日本におけるスウェーデンのイメージは、福祉国家、税金の高い国、などでしょう。高負担、高福祉、「スウェーデンモデル」なる言葉もうまれました。ヴァイキングの国であり、デンマークの支配から独立した後もバルト海沿岸に領地をふやし、次第に経済は疲弊し国民は平和を希求していったとのことです。1814年以降は戦争には参加していません。人類学者オーケ・ダウンは著書「スウェーデン人のメンタリテイ」のなかで「謙虚、地味、節度などの特徴は日本と似ている」と述べています。国民性は、近似点もあるようです。人口約890万人、日本の約1.2倍の国土を有する。首都のStockholmの人口が約100万人弱。人口密度は22人/平方キロメートル。わが国の約23分の1で、広大な国土に町が点在している形態をとっています。大多数の住民は南部の地方に住んでおり、気候や風土は北海道と極めてよく似ている。殆どの労働者は週40時間労働で、それ以上働いた場合はオーバータイムとなり、年間5週間の有給休

暇が保証されており、仕事に関連した死亡事故数は世界で一番低く、労働環境では厳しい安全に関するモニタリング管理が行われている。過去10年間に寿命は男性で2.5年伸びた76.9歳、女性の場合は1.6歳伸びた81.8歳である。

スウェーデンでは医療にかかる費用の大半を税金で賄う保険サービスの国ですが、ヘルスケアコンサルタント、山岡幸雄氏によると、2002年、政府管掌の健康保険による病気・怪我の有給休暇人口はここ5年間で倍となり、病気・怪我に支払われる福祉補償金額は軍事費と教育費の両方を合わせた金額を上回り、労働人口の6人に1人の割合で病気とか怪我を理由に職場に出てこない事で国の労働力が低下しているとのことであります。

また約34万人が病気・怪我で政府機関の全国社会保険委員会からの福祉金を受け取っており、全国民の26人に1人の割合でこの福祉補償金受益者となっています。ヘルスケア予算は国の予算の16%を占め一年間に約120億ドル、と言われ、更に、これに加えて65歳以下の47万人が身体障害者年金を受け取っています。この身体障害者年金は普通の病気・怪我で受け取る福祉補償金を大きく上回る金額だそうです。

その分税金は非常に高い。個々が直接払うか、あるいは政府に税金という形で財布ごと預け、その時々で払ってもらうかという違いでしょうか。あまりの高さにあのボルボが本拠地をスウェーデン外へもって行ってしまったほどです（今は戻っていますが）。いずれにせよ政府と国民の信頼関係に基づいた政策であったでしょう。

スウェーデンの健康保険システムは、国の税率は高いがきちんとした補償制度で行われている事から貧富の差も少なく福祉国家としてこれ

まで世界の注目の的でありました。1990年代の半ばには社会保障の割合が多少減ったものの、失業者とか両親の義務としての保育に必要な休暇は国が保証してくれていました。このシステムは世界一税率が高い事で知られるものの、その非常に高い収入額、富、所有物質そして購買力は世界の羨望の的であったのです。

前述したように昨今社会保障費は増大を続け、これ以上になると福祉補償金としての補償内容を変更するか、さもなければ疾病保険そのものの機能が喪失する状態にまできているといえます。

山岡氏（前出）によると病気で休んだ場合も80%の金額が保証され、一日最大限の受取額はスウェーデンのお金で623クローネ、約\$65が保証されているそうです。一週間40時間制で一ヵ月に4週間働き月に約\$1,500の税金を納める。但し、病気休暇中に受け取った福祉金も課税対象の収入とみなされ約30%から60%の税金を支払う事となっています。

労働者は普段の仕事が非常にストレスが多いものであるという認識から、ストレスによる病気休暇は当然のものとする考え方をするのが普通になってきたようです。

図1は1998年の先進諸国の租税負担および社会保障負担を国民所得費で表したものです。政府全体でみるとスウェーデンが72%と高く、この考えにも納得させられるものがあります。

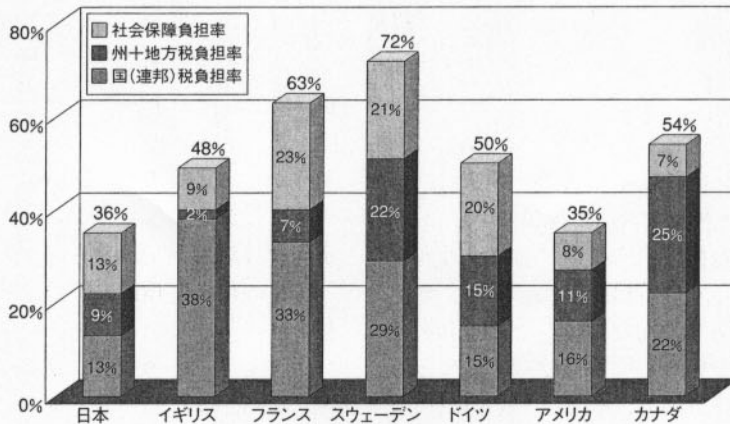
Svenska Dagbladet新聞は『スウェーデン人はきちんとした作業環境を作り上げその周りにはいつでも食べて下さいと言わんばかりに一杯フルーツが並べられた様な状態で甘やかされて働く事に慣れてしまった』とコメントしています。この記事によりますと、スウェーデン人は余りにも労働者を過保護にした事から、甘やかされた労働者は逆にその様なシステムを悪用する事が当然の権利だと考えるようになった、ということだと述べています。また、TEMOと呼ぶアンケート調査会社が2000人のスウェーデン人を対象に行った調査によると60%の人達が「実際に病気でも病名目で（例えば、家族の問題とかストレスが溜まったとの理由で）休暇をとるのは当然の事」と考えている事が判明したとのことです。

社会保障も行き過ぎるとそれなりの問題点が出てくるようです。アメリカ型マネジドケアもダメ。スウェーデン型高負担、高福祉型も危ない状況です。

私はGolden meanという言葉が好きです。国民皆保険制度、現物給付、出来高払い、フリーアクセスの堅持、このバランスは崩してはいけません。「水であり、空気である日本の医療保険制度」日本医師会長、坪井栄孝先生の言葉ですが、この意味を良く噛み締めなければなりません。

（今 医院）

図1 国民負担率(1998)



(資料) National Accounts 1989 2000 / OECD ,Revenue Statistics 1965 2000 / OECD 等